

1 覚王山日泰寺

※事務所受付時間は9時から16時

1904年に創建されたお釈迦様のご真骨を安置するために創建された寺院です。このご真骨は1898年インド領から見つかったもので、多角的な考古学調査により、ご真骨であることが立証され、「19世紀の東洋史上最大の発見」と言われているものです。ご真骨はインド政府から仏教国であるタイ王室に寄贈され、タイ國国王ラーマ5世から日本に譲られ、分骨されました。この時、特定の宗派に祀るのではなく、日本の仏教徒がもれなくお参りできるお寺を建立するようにとの依頼がタイ王国からあり、候補地として京都、東京、静岡などがあがりましたが、最終的に名古屋の方々が広大な土地や建築費用を寄付や譲渡で行うと発言され名古屋の地に決定致しました。

これらの経緯から日泰寺は日本で唯一の、考古学的裏付けのあるお釈迦様のご真骨が安置されている超宗派のお寺として創建されました。「日泰寺」の名称は「日本」と「タイ(泰)王国」から一文字をとり日本とタイの有効を表しています。ご本尊もラーマ5世から贈られたタイ王国国宝の「釈迦牟尼如来」です。本尊両脇の絵画は地元を代表する画家高山辰雄によるものです。

●URL: <http://nittaiji.or.jp/>

●住所 〒464-0057 愛知県名古屋市千種区法王町1-1
●TEL 052-751-2121 ●FAX 052-752-1115



2 揚輝莊

揚輝莊は、1918年から1937年にかけて株式会社松坂屋の初代社長である15代伊藤次郎左衛門佑民の別邸として、名古屋東部に位置する覚王山の丘陵地に造営されました。2013年から、地域の歴史・文化を伝える施設として一般公開をしています。

起伏にとんだ約1万坪に及ぶ敷地に、最盛期には30数棟に及ぶ建物があり、庭園は池泉をめぐらすなど地形や周囲の自然を活かして造られていました。

時とともに建物・敷地の大半が失われましたが、現在でも、「三賞亭」と名付けられた煎茶の茶室や「白雲橋」という廊橋など見どころにあふれています。かつて迎賓館として、また、彼が援助していたアジアからの留学生の宿舎として使われていた「聴松閣」は、インドや中国・英国など各国の建築様式がミックスされていて興味深い建物となっています。

「三賞亭」「白雲橋」「聴松閣」の他、尾張徳川家ゆかりの座敷に洋室などを加えて建設した「伴華樓」、そして現在非公開の「揚輝莊座敷」が名古屋市の指定有形文化財に指定されています。

●聴松閣のみ入館料 一般・高大生 300円 中学生以下無料

●開館時間 9時半から16時半

●休館日:月曜日(祝日の場合は直後の平日) 12月29日から1月3日

●URL: <https://yokiso.com/>

●住所 〒464-0057 名古屋市千種区法王町2-5-17

●TEL 052-759-4450 ●FAX 052-759-4451



白雲橋

伴華樓

3 相應寺

徳川幕府を創った徳川家康の側室「お亀の方」や、1600年代以降この地を支配した尾張徳川家の夫人・子女が埋葬されたお寺。創建は1643年で当初は現在の名古屋市東区にあった。1662年には徳川家康の隠居後の住まいがあった静岡から移築された「駿河御殿」が移築され、徳川家のお抱え絵師団である狩野派の障壁も一緒に移築されました。現在の名古屋の東にある覚王山地区に相應寺が移ったのは1932年。この時期は日泰寺を中心に、この地域が発展してきた時期であり、寺院が名古屋各地から集まり、私立学校が開校し、実業家の邸宅ができた時期と重なります。相應寺には京都東山にある清水寺の舞台を模した舞台もつくれました。第二次世界大戦やその後の自然災害によって清水舞台や駿河御殿は現存していませんが、本堂では演劇やコンサートやヨガ等のパフォーマンスイベントを定期的に開催しており、障壁画の一部は現在でも本堂などで見ることができます。

●URL: <https://sououji.com/>

●住所 〒464-0045 愛知県名古屋市千種区城山町1-47

●TEL 052-751-0435



4 古川美術館

古川美術館の所蔵品の中核を成すのは、アメリカの経済誌で世界最長老の富豪として紹介され、名古屋を代表する実業家 古川爲三郎(1890~1993)から寄贈されたコレクションで、1991年に開館しました。古川爲三郎は同時代の日本を代表する横山大観、竹内栖鳳、上村松園らが描いた富士や桜、美人画を好み、1930年代から70年代に描かれた日本画を主に収蔵しています。

また、篤志家として大学図書館の建設をはじめとする地域の社会事業や慈善活動を積極的に援助するとともに、地元芸術家を支援するためにはその作品を収集し、一方、自身の生活の一部として楽しんだ茶道具類も含めて、そのコレクション数は2,800点を超えてます。

そのなかでも、中世ヨーロッパの彩飾写本《ブシコー派の画家の時祷書》の完本は、国際博覧会で出品されるなど、現在でも世界中の人々に注目されています。

これからも、地域の文化芸術拠点として、ご来館いただいた皆様に喜びをお伝えできれば幸いです。



5 分館 爲三郎記念館

爲三郎記念館は、アメリカの経済誌で世界最長老の富豪として紹介され、名古屋を代表する実業家として知られる 古川爲三郎(1890~1993)が終の住処とした邸宅で、数寄屋建築とよばれる茶道を楽しむための洗練された佇まいと、日本建築の空間と意匠、そして庭園により、四季折々の姿を楽しむことができます。

母屋「爲春邸」の四つの茶室と離れの茶室「知足庵」では、それぞれ異なる造りの茶室を楽しむことができます。庭園には茶席の始まりを待つ「腰掛待合」や「雪隠」(昔のお手洗い)など、全体として茶事でお客様をもてなすように造られており、正門、東門を含め国の登録有形文化財に登録されています。

古川の没後、「創建当時の数寄の姿をとどめる邸宅を皆様の憩いの場に」との遺志により、古川が初代館長をつとめた古川美術館の分館として公開しています。

現在では、古川美術館のコレクションや地域の美術工芸作品の展覧会のほか、茶席や香席などをとおして日本文化の継承と紹介をしています。

【古川美術館・分館爲三郎記念館 共通インフォメーション】

●入館料 大人1000円 高大生 500円 中学生以下無料

※このチケットで古川美術館と爲三郎記念館の両館にご入館いただけます。

●開館時間:10時から17時

●休館日:月曜日(祝日の場合は直後の平日)

展示を変更する時期(ホームページでご確認下さい。)

●URL: <https://www.furukawa-museum.or.jp/>

●住所 〒464-0066 名古屋市千種区池下町2-50

●TEL 052-763-1991 ●FAX 052-763-1992



EAST NAGOYA KAKUOZAN

覚王山で歴史散歩をしませんか？



アクセス

●JR名古屋から地下鉄東山線(黄色の路線)で藤が丘方面へ14分
●栄駅から地下鉄東山線(黄色の路線)で藤が丘方面へ9分

覚王山駅下車 ①番出口から地上に出てすぐ



覚王山歴史散歩

覚王山日泰寺地区

名古屋の東部、小高い丘陵地に位置し、古くから月見の名所として知られていた当地は、覚王山日泰寺の創建を機に京都の東山に倣った街づくりがすすめられ、寺社仏閣などの歴史的建造物が多数現存しています。また、名古屋の財界人が集う奥座敷として料亭や別邸が建てられ、芸術が生活文化の中に広く根付いています。

日泰寺の参道として発展してきた覚王山商店街は、古くからの伝統と新しいクリエーターの息吹が共生する人気観光スポットで、また、落ち着いた街の雰囲気は名古屋でもっとも人気のある住環境として知られています。



上村松園「初秋」1943年頃



4 古川美術館



5 爲三郎記念館

抹茶と和菓子も
楽しめます別途
茶道・香道体験
もできます

毎月21日は弘法市日の
ごほういち

早朝から、日泰寺境内や参道に雑貨やみやげ物などの露店が立ち並びます。名古屋人好みのこってり味の串カツやみたらし団子などの屋台グルメも楽しめます。



● 覚王山商店街HP



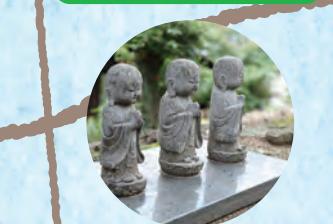
1 日泰寺



2 揚輝莊



3 相応寺



西山公園



覚王山アパート



えいごく屋

みたらし団子
つる屋

地下鉄 覚王山駅



地下鉄 覚王山駅

地下鉄 覚王山駅